

平成 29 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	状況報告等
人間文化学部 国際文化学科	栗原 武士 高松 亮太 鄭 銀志	H29. 7. 4(火) 14:40～16:10	1212 会議室	<p>テーマ：卒論指導体制の改善</p> <p>参加者：教員 21 名</p> <p>簡単な状況報告： この F D では、卒業論文の質的向上と学生の学修成果を高めることを目標とし、従来の卒業論文の指導体制に対する改善を試みた。 まず、3 人のコーディネーターが、卒業論文作成のためのループリック（平成 29 年 6 月 27 日の学科教員会議で教務委員会から提案され、承認されたもの）の内容を踏まえながら、卒論指導に関する実践報告（1. 卒業論文執筆のための夏合宿や卒業論文集の制作、2. 自修ゼミ設定による学修時間確保や個別指導、3. 卒業論文作成のための詳細な年間スケジュール表の配布と主な指導内容）を行った上で、質疑応答を行った。それに加え、10 人の学科教員から卒業論文指導に関する事例が簡単に紹介され、有益な情報を共有することができた。これらの内容を基に、卒業論文の指導に伴う問題点や改善点、適切な指導人数、就職活動と同時に卒業論文に向き合う学生らの自主的な学修に導くための工夫、ループリックの活用方法、成績評価の基準などについて、参加者同士で活発な意見交換を行った。以上を通して、卒業論文指導体制の改善に向けた具体的な方策を共通認識することができた。今回の F D で得られた成果は、本年度の卒業論文の指導や卒業論文の中間報告会・最終発表会（ポスター発表）、卒論審査に反映されたので、その意義は大きいといえる。</p>
人間文化学部 国際文化学科	鈴木 康之 柳川 順子	H29. 9. 19 (火) 10:40～12:00	1215 会議室	<p>テーマ：主専攻・副専攻プログラムの具体化―「国際文化学入門」開始に向けて―</p> <p>参加者：教員 21 名（内、紙面のみの参加者は 5 名）</p> <p>簡単な状況報告： 平成 28 年度学科 F D 「教育プログラムの実質化に向けての情報交換会」を発展させ、平成 29 年度入学生より適用される主専攻プログラム「英米文化」「日本文化」「東アジア文化」及び副専攻プログラム「人間理解・国際理解」「比較文化」「比較言語」に基づいて、学科教員の科目間連携を更に促進するための意見交換会を行った。具体的には、各自の担当する主要科目を主専攻・副専攻プログラムの中に位置づけ、そのプログラムにおいて特に関連性の深い科目を具体的に挙げながら、学科専門教育の中で各自の担当科目が果たす役割を述べ、相互連携の実体化を図るという内容であった。なお、学科教員には個別にあらかじめ書面による問いかけを行い、寄せられた回答をとりまとめて会の資料とした。 こうした情報交換を行った上で、1 年次後期開講「国際文化学入門」の初回における、教育プログラムについての説明内容を検討した。学科基礎必修科目である本科目では、学期の前半に 3 つの主専攻プログラムのクラスの中から 1 つを選び、後半に 3 つの副専攻プログラムのクラスの中から 1 つを選んで履修することとなっており、学生の主体的な選択・学修を導き出すためには、上述の教育プログラムに対する十分な理解が必要となる。このために設けた F D ではあったが、主専攻・副専攻プログラムの始動に向けて、教員の科目間連携に対する意識を高める効果もあったと見ることができる。</p>

人間文化学部 健康科学科	栢下 淳 谷本 昌太	学外実習WG 会議開催日及び H29. 11. 21 (火)	1418 会議室 1215 会議室 等	テーマ：健康科学科における組織的な教育の実質化
				参加者：17名
				簡単な状況報告： (前期) 管理栄養士臨地実習と栄養教諭関連科目のコースカタログ及びシラバスを、担当教員で構成するWG(学外実習WG)で再点検し、改善点等について協議し修正を行った。点検、修正に際しては、客員教授とも連携し、本取組を組織的に実施した。 (後期) 修正したコースカタログ及びシラバスを11月の定例学科会議において報告し、修正内容・改善点等の学科内での共有を図った。また、学科内で共有した内容を2月にシステム登録し、3月に教員間の相互確認を行った。 今後の課題：管理栄養士臨地実習と栄養教諭関連科目以外のコースカタログ及びシラバスについても点検、改善点等を検討し、組織的な教育改善の取組を更に拡大すること。
経営情報学部 経営学科	平野 実	①H29. 5. 10(水) ②H29. 6. 14(水) ③H29. 7. 12(水) ④H29. 9. 13(水) ⑤H29. 10. 11(水) ⑥H29. 11. 8(水) ⑦H29. 12. 13(水)	1212 会議室	テーマ：ゼミ指導方法の改善
				参加者：延べ85名(各回9～13名)
				簡単な状況報告： (概要) 平成29年5月から12月にかけて、毎月1度開催される学科会議において学科FD研修を行った。具体的には、学科の各教員がローテーションで自らのゼミの活動内容について10分程度のプレゼンテーションを実施し、他の教員との間で活動内容についての質疑応答を行った。 (成果) 従来は各教員が他のゼミの活動内容について詳細を知ることはなかったが、学科FD研修を通じて、学科の全教員が自らのゼミ運営についての説明を他の教員に対して行うことができた。そのことを通じて、さらなるゼミ内容の充実に向け、学生の学修意欲向上に向けた動機づけのノウハウを得て、活用できる部分については各ゼミの活動内容に取り込み、ゼミ内容のさらなる充実をはかった。 (課題) ゼミ運営ノウハウの中には、学生との接し方や学修意欲向上に向けたテーマの進め方など、ゼミの専門分野を問わず有効なものが多くみられた。一方で、学科FD研修の中で紹介されたノウハウの中には、アクティブ・ラーニングをどのように進めていくかなど、専門分野によってそのまま活用することが難しいものもあった。後者については、ゼミの専門分野によって必要な内容を熟慮しながら検討していくことが必要である。
経営情報学部 経営情報学科	陳 春祥 佐々木 宣介 重丸 伸二 広谷 大助	前期： 火曜日5時限 後期： ①H30. 3. 7(水) ②H30. 3. 16(金)	1175 講義室 教員研究室 1215 会議室	テーマ：学修意欲の促進につなぐ初年次専門研究紹介の取組
				参加者：1年生(47名)、講義担当者(学科教員10名、外部講師3名・1団体)、FD振り返り学科教員(15名)

				<p><b>簡単な状況報告：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生を対象に、経営情報学専門演習(卒業論文)とのつながりを把握して、学習意欲を高めるため、10名の専任教員並びに4名の外部講師によりオムニバス方式で各分野での専門研究を分かりやすく紹介した。各回1名の教員が1時間程度で研究紹介をし、その後、学生に対して20～30分程度で振り返りシートに記入をさせた。</li> <li>・ 振り返りシートで、学生は講義のポイントを記入し、講義に対する理解度・関心及び今後へ活かせるかの自己評価を行い、質問・疑問及び感想を書いた。これらの質問等に対して担当教員は次の時間で直接回答したり、質問回答集を作成したり、振り返りシートに直接記入し学生へ返却するなどそれぞれの方式で回答を行った。</li> <li>・ 後期では、学生からの振り返り、感想や教員からの質問回答を集め、全教員間で情報を共有して、最後には教務委員による検証を経て、学科会議にて設定目標、運営方法、組織的な教育強化などを図った。</li> <li>・ 振り返りシートでは、ほとんどの講義で講義に対する理解度・関心及び今後へ活かせるかのどの項目も5点満点中平均4点以上の点数となり、学生からの質問・感想等も長文の記述が多く見られた。更にこの講義を受けて良かったとの記述が最終回における感想で多く見られることから、当初設定した本取組の目標は高いレベルで達成できたといえる。</li> </ul>
生命環境学部 生命科学科	五味 正志	4～6月にかけての学科会議及びコース会議において実施方法の検討を行い、大学基礎セミナーの第8回～15回に実施した	大講義室及び各教員研究室	<p><b>テーマ：大学基礎セミナーの実施方法改善についての検討</b></p>
				<p><b>参加者：教員 34名、学生 113名</b></p> <p><b>簡単な状況報告：</b> 生命科学科では、従来から大学基礎セミナーで教員の研究内容の紹介と研究室訪問を実施しており、一昨年度からはアクティブ・ラーニングの手法を取り入れるため、研究室訪問の時に議論を実施する方法に変更した。一昨年度の実施後のアンケート調査から、訪問する研究室の選定方法と議論の課題内容について、学生の満足度が少し低い傾向が読み取れたため、昨年度はこれらの方法について少し改善を試みた。また、議論の課題については、コースごとに少し手法を変更した。その結果、昨年度の実施後のアンケート調査結果は、研究室の選定方法は逆に少し悪化した。そこで、今年度は改善を図るため、研究室の選定方法をさらに変更した。しかしながら、この項目についてのアンケートの回答には改善が認められず、逆にさらに少し悪くなった。今年度は、全体的に昨年度よりもアンケートの満足度が低めであったが、研究室の選定方法以外は昨年度とほぼ同等で、一昨年度より高い傾向であった。この3年間の取り組みの結果は、平成29年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会において発表した。今後も、さらなる改善を実施していく予定である。</p>
生命環境学部 環境科学科	西村 和之 三苦 好治 原田 浩幸	学科独自のルーブリックの作成は、11月から2月末を締め切りとしてひな形を配布し、各教員が作成後に一括ファイルして取り纏めて教員に再配布して共有情報とした。 環境科学セミナーIを予定通り	大講義室及び各教員研究室	<p><b>テーマ：アウトカムズに直結する科目のルーブリック作成とその一般化への検討</b></p>
				<p><b>参加者：専門科目教員 13名</b></p> <p><b>簡単な状況報告：</b> (1) アウトカムズに直結する科目(環境科学科の場合：大学基礎セミナー&lt;1年生前期&gt;→環境科学セミナーI&lt;1年生後期&gt;→環境科学セミナーII&lt;2年生前期&gt;→各学年の実験・実習等→3年生中間発表会&lt;3年生後期&gt;→4年生中間報告&lt;4年生後期始め&gt;→4年生卒論発表会)のルーブリックを科目担当教員が作成することとし、2月末の時点で28科目34科目82%の科目についてのルーブリックが完成した。 (2) 必修科目として配当した環境科学セミナーIでは、下記の通りの日程で卒業生を含む外部講師による企業・業界研究、事業所見学やアウトカムを念頭にした教員による講義や研究紹介に基づき、講義や研究とキャリア形成との繋がりを考えさせるレポート課題を課して成績評価とした。</p>

		に後期火曜日午後3コマ連続×5日を実施した。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">環境科学セミナーⅠ 日程調整表</th> <th>170829</th> </tr> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">日程・時限</th> <th>9月25日</th> <th>10月2日</th> <th>10月16日</th> <th>10月23日</th> <th>10月30日</th> </tr> <tr> <th>第01回</th> <th>第02回</th> <th>第03回</th> <th>第04回</th> <th>第05回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">3限</td> <td>①</td> <td>概要説明(小林)</td> <td rowspan="6">芦田川浄化センター (西村先生)</td> <td>橋本先生</td> <td rowspan="6">JFE(小林)</td> <td rowspan="5">13:00 アラハタ 内藤環境管理</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>13:15 いであ</td> <td>原田先生</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>14:00 井野上さん</td> <td>三苫先生</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">4限</td> <td>①</td> <td>14:40 池田糖化工業</td> <td>14:40 広島県</td> <td rowspan="5">14:40 クリタ分析センタ</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>15:25 西村先生</td> <td>15:25 水King</td> <td>15:25 内藤先生</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td>16:05 西本先生</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">5限</td> <td>①</td> <td>大竹先生</td> <td>青柳先生</td> <td>16:35 有馬先生</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>加藤先生</td> <td>崎田先生</td> <td>17:05 松本先生</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>レポート</td> <td>小林</td> <td>レポート</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考)</p> <p><a href="http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/170913.html">http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/170913.html</a></p> <p><a href="http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/170925.html">http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/170925.html</a></p> <p><a href="http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/180105.html">http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/life/180105.html</a></p>	環境科学セミナーⅠ 日程調整表							170829	日程・時限		9月25日	10月2日	10月16日	10月23日	10月30日	第01回	第02回	第03回	第04回	第05回	3限	①	概要説明(小林)	芦田川浄化センター (西村先生)	橋本先生	JFE(小林)	13:00 アラハタ 内藤環境管理	②	13:15 いであ	原田先生	③	14:00 井野上さん	三苫先生	4限	①	14:40 池田糖化工業	14:40 広島県	14:40 クリタ分析センタ	②	15:25 西村先生	15:25 水King	15:25 内藤先生	③			16:05 西本先生	5限	①	大竹先生	青柳先生	16:35 有馬先生	②	加藤先生	崎田先生	17:05 松本先生	③	レポート	小林	レポート
環境科学セミナーⅠ 日程調整表							170829																																																								
日程・時限		9月25日	10月2日	10月16日	10月23日	10月30日																																																									
		第01回	第02回	第03回	第04回	第05回																																																									
3限	①	概要説明(小林)	芦田川浄化センター (西村先生)	橋本先生	JFE(小林)	13:00 アラハタ 内藤環境管理																																																									
	②	13:15 いであ		原田先生																																																											
	③	14:00 井野上さん		三苫先生																																																											
4限	①	14:40 池田糖化工業		14:40 広島県			14:40 クリタ分析センタ																																																								
	②	15:25 西村先生		15:25 水King				15:25 内藤先生																																																							
	③					16:05 西本先生																																																									
5限	①	大竹先生	青柳先生	16:35 有馬先生																																																											
	②	加藤先生	崎田先生	17:05 松本先生																																																											
	③	レポート	小林	レポート																																																											

保健福祉学部 看護学科	教育課程検討会 担当教員	①H29. 4. 11(火) 9:00~10:30	3415 会議室	テーマ：看護学科・教育課程上の参照基準の確認(情報収集・検討・FD研修会開催)
		②H29. 5. 11(木) 16:20~17:30		参加者：各回10~11名
		③H29. 6. 22(木) 9:00~10:40		簡単な状況報告：
④H29. 8. 01(火) 16:20~18:30	(1) 教育課程上の参照基準の確認(情報収集・検討・FD研修会開催)			
⑤H29. 9. 08(金) 16:20~18:20	・看護学教育モデル・コア・カリキュラムの策定を受け、本学科の教育課程について方向性の検討を行うために、各委員が積極的に関連研修会に参加し情報収集と内容理解に努めた。			
⑥H29. 10. 16(金) 16:20~18:20	・本学科教員と看護基礎教育を担う看護職者に周知するため、FD研修会を企画した。研修会のテーマ、講師選定、グループ討議の運営方法などを綿密に計画し、近隣施設へ広報を行った。			
⑦H29. 11. 20(月) 13:00~14:40	・平成30年3月8日第1部講演会と第2部ワークショップを開催し、教職員、病院・施設看護師や保健師など第1部81名、第2部59名の参加があった。			
⑧H29. 12. 26(火) 13:00~14:40	(2) 教育内容(H28整理した技術と疾患・症状参照)と国家試験出題傾向の検討 平成30年度国家試験の出題基準等について情報交換、変更点について確認をおこなった。			
⑨H30. 1. 12(金) 15:30~17:30	(3) 学修支援アドバイザーの活用			
⑩H30. 2. 22(金) 14:30~15:40	・本学科における学修支援アドバイザーの活用方法の意見交換を行い、実習前技術演習や国家試験学修のサポートを実施することとした。			
⑪H30. 3. 01(木) 10:40~13:10	・学修支援アドバイザーの運用は、アドバイザーになるための講習会参加の呼びかけ、アドバイザー活用科目の整理、事後アンケートの集計・報告などをおこなった。			
⑫H30. 3. 13(火)	・学修支援アドバイザー登録者数53名、延べ参加学生58名であった(2017.12月現在)。 ・本件の状況は全学AP事業にて学修支援アドバイザーの取り組みについて報告した。 ・学修支援アドバイザーの今後の育成と継続するための方略を検討した。			

		13:30～14:10		
保健福祉学部 看護学科	看護学科実習 検討会担当教員	H29. 4. 21 (金) 14:00～16:30	4102 会議室	テーマ：教員と実習指導担当者の情報共有・教育方法改善
				参加者：48名
				簡単な状況報告： 実習指導担当者協議会を開催した。臨地実習報告及び「教員と実習指導者との連携～配慮が必要な学生にどう対応するか」というテーマで教員と実習指導者がグループ討議を行った。討論では、「様々な角度から学生を観る視点が定まり、学生だけではなく新人を育てる上でも役に立つ内容であった」「参加者の意見や考え方を知ることができて視野を広げることができた」などの評価を得た。今後も実習指導者との意見交換を行い、教員と実習指導者との連携強化を目指す。
保健福祉学部 看護学科	看護学科実習 検討会担当教員	①H29. 3. 31 (金) ②H29. 5. 2 (火) ③H29. 6. 19 (月) ④H29. 8. 4 (金) ⑤H29. 9. 25 (月) ⑥H29. 10. 16 (月) ⑦H29. 11. 15 (水) ⑧H29. 12. 21 (木) ⑨H30. 1. 5 (金) ⑩H30. 2. 7 (水) ⑪H30. 3. 9 (金)	3418 小会議室	テーマ：臨地実習教育の充実
				参加者：延べ108名（各回9～11名）
				簡単な状況報告： 臨地実習要綱の検討、平成30年度実習計画案の作成を行った。また、学生のインフルエンザ予防接種の確認方法を学科内で統一し、実習における季節性インフルエンザ対策の強化に努めた。 各臨地実習報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有及意見交換を行い、実習指導体制や学修施設の環境の充実を図った。
保健福祉学部 看護学科	黒田 寿美恵	H29. 12. 26 (火) 9:00～12:00	3307 基礎看護実習室	テーマ：シミュレーション教育の充実
				参加者：44名（教員24名、学生20名（看護学科3・4年生の学修支援アドバイザー学生））
				簡単な状況報告： 既に複数の科目で導入しているシミュレーション教育について、学科内でより一層系統的・発展的に実施していくことを目的に実施した。呼吸器疾患患者のシナリオを用いた模擬シミュレーション教育を教員が参観するという形で行い、学修者役として看護学科3・4年生の学修支援アドバイザー20名の協力を得た。実施後は、看護学科の授業にさらにどのように取り入れていけばよいか、教員にどのような支援を求めるか、について学修支援アドバイザーから意見をもらい、教員全員で共有した。
保健福祉学部 看護学科 FD研修会	教育課程検討会	H30. 3. 8 (木) 10:00～16:00	第1部 講演 4602 講義室	テーマ：看護の動向と看護教育－施設内看護から地域での暮らしを見据えた看護へのパラダイムシフトー

			第2部ワークショップ 4601 会議室 4606 演習室	<p>参加者：第1部：81名，第2部：59名</p> <p>簡単な状況報告： 看護系教員，医療施設で勤務する看護職・教育関係者を対象に標記テーマでFD研修会を開催した。 第1部では，公益社団法人日本看護協会副会長の齋藤訓子先生を招致し，「看護の政策的動向と看護の在り方ー地域包括ケアシステムを見据えてー」の講演をしていただいた。 第2部では，「地域課題解決，地域創成」を担う看護職育成を目指した教育課程を策定するために，ワークショップを実施し，活発な意見交換を行った。医療施設管理者，臨床で活躍する看護職と教員がチームを組んで医療の現場の現状や教育的な課題を抽出し，自分の立場でできるアイデアを出し合い共有した。看護基礎教育から臨床看護師教育まで，教育現場と臨床現場が一体となって，教育内容を精選していくことが確認できた。さらに，看護師は地域や人々の生活を支え，健康を守ることに徹した専門職であることを一人ひとりが自覚した研修会となった。</p>
保健福祉学部 理学療法学科	塩川 満久 佐藤 勇太	(前期) 毎週水曜日 4限 (後期) 毎週水曜日 1限	2416 会議室	<p>テーマ：「学生動向を把握する・共有する」，「講義の形態・方向性を吟味する」</p>
				<p>参加者：15名</p> <p>簡単な状況報告： (1)「学生動向を把握する・共有する」について 本テーマは，各学生について情報を共有することにより，指導，援助の一貫化を図ることが目的である。毎週の学科会議では，各学年のチューターから報告される。配慮が必要な学生に関しては，各担当教員を中心として詳細な報告・情報共有をし，協議している。 (2)「講義の形態・方向性を吟味する」について 本テーマは，講義，学生指導のあり方について検討することが目的である。学科会議にて，国家試験模試の結果を共有し，国家試験に向けた講義等に活かしている。また学科会議に合わせて月1回程，各種教授法の実践例の紹介や指定規則関連内容の伝達などを通して情報共有し，今後の講義を吟味している。 (3)「各教員の研究領域の紹介」について 本テーマは，各教員の研究領域における成果を共有して研究・教育能力の向上を図ることが目的である。学科会議に合わせて月1回程，各教員の研究紹介などを通じて行われる。 以上の内容は，個人情報を含む学科特有の内容についての議論を要する。このため，対象組織は，理学療法学科のみとした。</p>
保健福祉学部 作業療法学科	高木 雅之	①H29. 4. 5(水) ②H29. 5. 10(水) ③H29. 6. 7(水) ④H29. 7. 5(水) ⑤H29. 8. 2(水) ⑥H29. 8. 16(水) ⑦H29. 9. 20(水) ⑧H29. 10. 4(水) ⑨H29. 10. 27(金) ⑩H29. 11. 1(水) ⑪H29. 12. 20(水)	2406 会議室	<p>テーマ：作業療法士養成教育内容の組織的改善</p>
				<p>参加者：各回 10~12名</p> <p>簡単な状況報告： (1) チューターによる入学時からの学修支援方法の検討・実施 初年次からチューターが学生の学修状況を積極的に把握し，学修を促進していく方法を検討し実施した。具体的には，1年生に対しては入学早期から定期的なホームルームと成績不良者への個別面談と学習指導を実施した。2・3年生に対しては国家試験模擬試験を実施し，成績不良者へのグループ学修の機会を創出した。 (2) 国家試験の傾向を踏まえた教育内容の改善 国家試験の傾向と効果的な学修方法を理解し，各教員の教育内容に反映させた。具体的には，教員2名が教員対</p>

		⑫H30. 1. 17(水) ⑬H30. 2. 21(水)		<p>象の国家試験対策講座に参加し、国家試験の傾向および学修支援の方法を学び、学科内教員と共有した。また学外講師を招き、教員が国家試験の学修支援のポイントを学んだ。各教員が担当科目内で国家試験問題を活用し、授業内容を改善した。</p> <p>(3) 実習地との連携の強化と実習形態の改善     メーリングリストや実習指導者会議を通じて実習地との連携を強化し、実習内容の充実を図った。</p> <p>(4) 組織的な4年次国家試験対策     学科全教員が国家試験全員合格に向けてそれぞれの役割を担い、4年次学生の試験勉強をサポートできる体制を構築した。具体的には、チューターによる週1回のホームルームと計12回の模擬試験、全学科教員によるグループ学修の支援と成績に応じた個別支援を行った。</p> <p>(5) 最新の研究エビデンスの共有     作業療法関連領域における最新の研究成果を共有し、教育内容に取り入れていくと共に、各教員の研究・教育能力の向上を図った。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害学 科	細川 淳嗣		1309 演習室 1310 演習室	<p><b>テーマ：年間を通じた教育力向上のためのセミナー実施</b></p>
				<p><b>参加者：各回学科教員を中心に10名程度  ただし、(2)は学生の聴講も呼び掛けたため、70名程度であった。</b></p> <p><b>簡単な状況報告：</b></p> <p>(1) 昨年度参加した大学教育・医療専門職教育関連のセミナー・ワークショップなどの情報共有；5月31日(細川淳嗣)</p> <p>(2) 米国SLP養成制度、臨床現場での職務実態；6月9日(San Jose State Univ. Kathaleen Castillo氏, SLP、Santa Clara Valley Medical Center Kazuko Shem, MD) 5限</p> <p>(3) コミュニケーション障害学科学学生の生活実態:学生意識調査から；9月13日(城本修)</p> <p>(4) 全国リハビリテーション学校協会 第30回教育研修大会の報告(リハビリテーション養成校に対する教育認証評価 リハビリテーション関連職種の需給と将来展望について；10月4日(中村文)</p> <p>(5) 認知症のスクリーニング：軽度例を早期発見するために；11月15日(伊集院睦雄)</p> <p>(6) 台湾の特別支援教育教員、言語聴覚士養成の現状；11月7日(坊岡峰子)</p> <p>(7) 全国リハ学校協会主催教員研究大会、教員研修会報告～進研アド、国試塾による学生の傾向と国試対策～；12月20日(坊岡峰子)</p> <p>(8) 最近の障害学生支援 - 聴覚障害学生の意味表明支援から - ；2月27日(佐藤紀代子)</p> <p>本学科の学生の状況に関連したものから、言語聴覚士教育・医療従事者教育(国家試験対策も含む)、障害を持った学生への合理的配慮、国際交流に関連した情報などの直接学生教育に関わるテーマから、各教員の教育内容の基盤となる研究領域のテーマまで幅広い話題が共有され、教員間での議論が行われた。</p>
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也			<p><b>テーマ：社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を図る</b></p>
				<p><b>参加者：授業公開者数：延べ21名  授業参観者数：延べ28名</b></p>

				<p>簡単な状況報告：</p> <p>(1) ピアレビュー（授業公開）事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施日時：平成 29 年のうち、7/11, 12, 25～28, 11/15, 16, 12/6, 8, 12, 20 の 1 コマ 平成 30 年のうち、1/15～17, 19, 24, 2/1 の 1 コマ</li> <li>実施場所：授業を開講する各講義室</li> <li>参加者数：<b>授業公開者数 延べ 21 名、授業参観者数 延べ 28 名</b></li> <li>状況報告：本学科独自の取り組みとして、ピアレビュー（授業公開）事業に取り組んだ。のべ 21 人の教員が 18 の授業を公開し、28 人の参観者が評価した。学生の学修への主体性を高める様々な取り組みについて、授業公開者・参観者共に理解を深める機会を得た。</li> </ul> <p>(2) アクティブ・ラーニングの伝達研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施日時：平成 29 年 7 月 26 日（水）9:30 から 10:30</li> <li>実施場所：4102 会議室</li> <li>参加者数：<b>8 名</b></li> <li>状況報告：ソーシャルワーク教育学校連盟でのアクティブ・ラーニングの研修（6 月 24 日～25 日）に参加した教員 2 人が、学科教員に研修内容の伝達を行った。加えて、第 47 回全国社会福祉教育セミナー（11 月 4 日～5 日）の研修内容について、学科派遣教員 2 人が学科教員に 11 月 9 日（木）に伝達研修を行った。また、日本ソーシャルワーク教育学校連盟中国四国ブロックセミナー報告（2 月 17 日）の研修内容について、学科派遣教員 3 人が学科教員に 2 月 28 日（水）に伝達研修を行った。</li> </ul> <p>(3) 学修支援アドバイザーの協力のもと行うシラバスチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施日時：平成 29 年 7 月 26 日（水）9:30 から 10:30</li> <li>実施場所：4518 演習室</li> <li>参加者数：学修支援アドバイザー 2 名、教員 1 名</li> <li>状況報告：精神保健福祉援助演習のシラバス内容について、経験者の立場から学修支援アドバイザーにシラバスへの意見を聴取し、貴重な資料を得た。</li> </ul>
保健福祉学部	手島 洋 細羽 竜也	H29. 6. 9（金） 13:00～14:30	4101 講義室	<p>テーマ：視覚障害学生への学修上の配慮の事例研究～合理的配慮をふまえた対応を学ぶ～</p> <p>参加者：三原キャンパス教員を主とした 30 名強</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>講師として、関西大学 学生相談・支援センターコーディネーターの藤原隆宏先生を招聘し、視覚障害学生の支援を念頭に置いた障害学生支援に係る理念、組織運営体制、支援の実際や留意事項について 30 分程度講義を頂いた後、以下のことを行った。</p> <p>(1) 三原キャンパスの事例についての質疑応答 本研修のコーディネーターの手島が、事前にキャンパス内で募集しておいた障害学生支援の事例について紹介し、質問等については藤原講師より回答を頂いた。</p> <p>(2) 障害学生支援における留意事項についてのグループ・ミーティング参加者同士が自らの事例について、相互に経験を共有することで、障害学生支援におけるキャンパス内での留意事項を共有できた。また疑問点や問題解決の道筋は講師より助言を頂けた。</p> <p>学部長先生や副学部長先生にもご参加いただき、三原キャンパスとして法令に則って、積極的に障害学生支援を推し進める姿勢を共有できた。</p>